

## 2016 年度 協豊会関西地区 研修見学会を開催



【トヨタ自動車東日本㈱「結ギャラリー」にて】

協豊会関西地区では、毎年分科会活動の一環として「研修見学会」を実施し、会員各社の研修研鑽を図っております。

2016年度は、7月8日（金）～9日（土）の2日間、協豊会関西地区会員各社を中心に総勢31名で宮城県を訪れ、「トヨタ自動車東日本㈱大衡工場」と「若柳地織」を見学させていただきました。

トヨタ自動車東日本は、2012年に発足したコンパクト車専門の生産部門であり、大衡工場では、販売好調な「シエンタ」や「カラーラアクシオ」の生産が行われています。

今回、組立工程と車体工程を見学させていただきましたが、ラインは吊り下げ方式ではなく、架台移動方式であり、設備投資を抑える事が出来ると同時に生産効率や作業性も良いとのことでした。またラインや作業現場のいたるところで「からくり」によるカイゼンが見られ、作業効率化を推進されていることが伺えました。

また、トヨタ自動車東日本では、東北の震災復興を支える企業として、地域の雇用創出や地元からの部品調達、地域企業との相互研鑽などに取り組まれているというお話をお伺いし、「地域に根ざしたものづくりによって東北を支えていく」という強い覚悟を感じました。

若柳地織（宮城県栗原市）は、明治末期創業の綿織物工場で、100年前に豊田佐吉翁が発明された自動織機（豊田式鉄製小幅度動力織機Y式）が現在も稼働し、実用的民芸品用の生地を製造しています。

かつて、綿織物業が盛んな頃は、従業員を30名程抱え、商売も繁盛していましたが、機械化と化学繊維の進出により需要が激減し、県内の同業者は次々と廃業してしまい、現在、若柳地織のみが家族3人で操業を継続されております。



【若柳地織 初代自動織機】



【織機に「豊田式織機株式会社」と表記】

しかし、東日本大震災により工場も大きな被害を受け、12台あった織機も6機が壊れてしまい、いよいよ廃業を考えていたところ、トヨタ自動車東日本の白根社長様より部品供給を申し出られて操業が継続できることになりました。

今ではトヨタ東日本学園の生徒たちが、授業で自動織機の構造を学ぶカリキュラムも組まれています。

初代自動織機は、構造がシンプルで美しく、生き物のような温かみがありました。稼働中の音も騒音ではなく耳に心地よい響きでした。製造される生地は丈夫で肌触りがよく、綿入れやもんぺなど、長期間で愛用されているそうです。

工場内には少し形の異なる織機も稼働していましたが、これは初代モデルから歯車の歯の切り方を改善し、部品点数を減らしたモデルとのことでした。佐吉翁の時代から、より良い製品づくりに懸ける「トヨタのDNA」が芽生えていたことに驚きました。



【若柳地織にて】

今回の研修見学を通じて、トヨタ自動車の「もっといいクルマづくり」の原点と最新の取り組みについて同時に学ぶことができました。また、トヨタ自動車と地域社会とともに歩まれようとする姿勢には、大きな感動を覚えました。参加した会員各社においても、今回得た知見を各社に活かし、トヨタ自動車とともに「もっといいクルマづくり」に貢献していきたいと思います。